

右は企画展「大阪湾のスナメリ」に向けての調査写真です。様々な情報をもとに、関西空港南側の水域を中心に調査しました。海上から陸上を見ると教科書に出てきそうな褶曲の露頭、真上に見る旅客機の離着陸、スナメリ以外にも興味深い物に出会いました。

上の写真は来年行われる国民的行事である「全国豊かな海づくり大会」のプレイベントとして大阪府栽培漁業センターの協力でヒラメを放流しました。朝から雨模様でしたが、放流の間は雨が見事に上がりました。

7月8月9月の行事 などの開催案内

- 7月6日(日) 二色の浜アマモ場の生きもの観察 (EXPO 2025 共創チャレンジ)
- 7月19日(土) 夏期企画展 「大阪湾のスナメリ」 ～ 9月1日
- 7月27日(日) せんごくの杜 トンボ採集と標本づくり 受付 7/1-7/24
同日 多様な生きものが生命を育む二色の浜アマモ場を守るため、種子を取り選別します 受付 同上
- 8月2日(土) 夏休み自由研究相談 8月24日(日)まで ※事前に電話で予約をお願いします
- 8月3日(日) せんごくの杜 夜の昆虫採集 (EXPO 2025 共創チャレンジ) 受付 7/1-7/21
- 9月13日(土) カニ釣り in 近木川 受付 8/1 ～8/31
- 9月20日(土) ミニ企画展『沖縄の生きもの展』 ～11月3日
- 9月27日(土) 近木川のアユを調べよう (EXPO 2025 共創チャレンジ) 受付 9/1～/19
- 9月未定 カタツムリ調べ 岸和田市神於山(道の駅 愛彩ランド) きしわだ資料館との合同イベント
(詳細決まりましたら ホームページに掲載します)

メールで申込の際は、住所(市町村名まで、番地以下は不要)参加される方の全員のお名前・年齢をご記入いただき、shizen.desk@icloud.com (このページの下メールアドレスのQRコードがあります)までお願いします。抽選による参加の可否につきましては、締め切り後の抽選の結果を代表の方にお知らせします。



行事申込メール Instagram YouTube ホームページ


貝塚市立自然遊学館
 Kaizuka City Museum of Natural History
 〒597-0091 大阪府貝塚市二色3丁目26-1
 TEL 072-431-8457 FAX 072-341-8458

自然遊学館だより



JAPAN MUSEUM
登録博物館
Vol.114 2025.7

アンモナイトの化石 (ゴードリセラス・イズミエンゼ) *Gaudryceras izumiense*



自然遊学館にて展示されている貝塚産のアンモナイト標本「ゴードリセラス・イズミエンゼ」は、自然遊学館に保管される化石の中で最も目を惹くものではないでしょうか。というのも、アンモナイトの殻全体において全くといって良いほど変形が見られない奇跡的な保存状態であるためです。本種は和泉層群哇ノ谷泥岩層から産出し、そこから産する多くの大型化石が変形していることを考えると、学術的にも非常に価値が高いといえます。おそらく海中で生息し、死後、堆積物に埋没してから化石となるまでの過程の中で圧密の影響をほとんど受けなかったレアケースと考えられます。本標本は、貝塚市立第三中

学校の敷地内で採集・保管されていたものが自然遊学館に寄贈され、1994年に開催された特別展「アンモナイト化石展」で初めてお披露目されました。

ゴードリセラス・イズミエンゼは、ゴードリセラス科の中でも殻表面に多数の細かい肋と周期的な粗い肋が見られるという特徴をもつ種です。貝塚市蕎原地域から産出した標本をもとに記載され(Matsumoto, 1954)、その後和泉山地から産出するアンモナイト化石の層序が示されました(Matsumoto and Morozumi, 1980)。本種は、白亜紀最末期にあたるマーストリヒチアン期初期の重要な指標種とされています。近年、北海道徳別地域やサハリンで産出したアンモナイトが同種であることが示され(Shigeta et al., 2010, Shigeta and Nishimura, 2013)、北太平洋地域全体の層序対比を行うための重要な役割を担う種であるともいえます。今後、細部の比較を行う際には自然遊学館所蔵の本標本が役立つと考えられます。みなさんもお時間のある時に、ぜひ、じっくりとこの標本を見に来てください。(松永豪)



美しき青き瞳 エゾヨツメ *Aglia japonica*

ヘルマン・ヘッセの短編小説『少年の日の思い出』という邦題にあるクジャクヤマユではないが、蛾の中でも格別の存在感を放つヤマユガの中にあり、エゾヨツメは魅惑的である。本種は翅を閉じてとまることも異色な存在で、なにより翅を開いた瞬間に現れる後ろ翅の鮮やかな眼状紋。美しい瞳の色が頭から離れなくなる。フェルメールのかの有名な絵画のように。

2025年4月29日貝塚市蕎原にてライトトラップにて採集 (鞍井希凧)

ヒメウ (カツオドリ目ウ科) *Pelagic Cormorant*

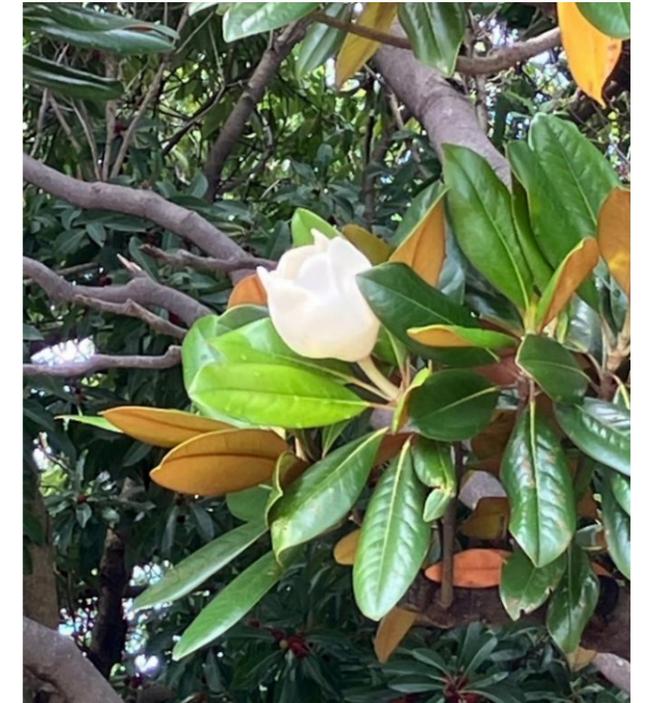


2025年4月9日、二色の浜でヒメウの大阪府で初めての死体の漂着が確認されました。ヒメウは大阪湾では珍しい冬鳥です。発見者の一人、湯浅章葉さんが大阪市立自然史博物館へ運び、寄贈標本としました。



タイサンボク *Magnolia grandiflora*

市民の森の道路際に植えられているタイサンボクが写真のように、良い香りと大ぶりの花を咲かせています。タイサンボクは、モクレン科モクレン属の常緑高木で、原産地は北アメリカ南部です。日本には明治時代に渡来し、公園や学校などによく植えられていますのでご存知の方も多いかと思います。樹高は十メートルを超えることもあり、大きな革質の葉と芳香のある白い花が特徴的です。葉は光沢があり、裏面は茶褐色の毛におおわれている。初夏から夏にかけて咲きます。花は直径二十センチもあり、芳香を放つため観賞価値が高いとされています。学名の *grandiflora* は「大きな花」という意味を持つ。花の後には集まった果実ができ、秋には赤い種子を見ることができます。強く成長も早く、大気汚染にも比較的に強いので、都市の緑化にも利用されています。また、材は建築や家具材としても用いられています。



オオシロカラカサタケ *Chlorophyllum molybdite*



市民の森内での撮影ですが、夏から秋にかけて、芝生や公園などの草地に発生する大型のキノコです。白い傘に褐色の鱗片をもち、ひだは初め白いが成長すると緑灰色になります。ひだの変化と緑灰色の胞子が、本種の重要な特徴である。見た目は美しく、可食のカラカサタケに似ていますが、強い毒をもっており、食べると数時間以内に激しい嘔吐や下痢、腹痛などの中毒症状を引き起こします。誤食による事故が毎年のように報告されており特に、身近な場所にも発生するため注意が必要です。キノコは似た種類が多く、外見だけでの判別は難しい。野外で見つけたキノコを食用とすることは避け、観察にだけしておいてください。